

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成28年11月〇日(〇)

2 学年・組 第4学年〇組

3 指導事項

(1) 話すこと・聞くこと イ

- 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ウ)

- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

4 単元名 「報告します、みんなの生活」

5 言語活動

出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。ア

- 「クラスの良いところ発表会」を開こう。

6 単元の評価規準と目指す児童の具体的な姿

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 「クラスの良いところ発表会」をすることに興味をもち、分かりやすく工夫して話そうとしている。	○ 目的に応じて、話題を設定し、伝えたいこととなぜそのように考えたのか分かる事例を挙げながら筋道を立てて話す内容を構成している。	○ 指示語や接続語が文と文との意味のつながりにはたす役割を理解し使っている。
○ 「クラスの良いところ発表会」をすることに興味をもち、よりふさわしい事例を見つけ出して話そうとしている。	○ 4年生にクラスの良いところを発表するために、テーマを選び、伝えたいこととなぜそのように考えたのかが分かる事例を挙げながら筋道を立てて話す内容を構成している。	○ 発表原稿を書くときに、指示語や接続語を正しく使っている。

7 単元について

《児童の状況》

相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと：「案内係になろう」では、ほとんどの児童が相手を意識して丁寧な言葉で話すこと、相手が知りたい情報を落とさずに伝えることを考えることができた。「ヤドカリとイソギンチャク」では、言語活動として「水について自分の考えたこと」を5年生に向けて発表をした。ほとんどの児童は、自分の主張に関連した情報を選んで伝えることを意識して発表することができたが、自分の主張したいことを支えるための情報を選ぶことが難しい児童もいた。目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話すことを意識している児童は少ない。

指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと：「ヤドカリとイソギンチャク」の学習では、接続語について学習した。接続語の使い方を理解している児童は多いが、積極的に使うことができる児童は少ない。

《教材の価値》

「クラスの良いところ発表会」を開くこと：各クラスでの取り組みを4年生の学年目標に関連づけて、クラス紹介として各クラスの良いところを紹介する場を設定した。「各クラスの良いところを認め合い、自分たちの生活に生かすこと」を目的にすることで意欲をもって取り組めることができると考えた。また、クラスの良いところを考えるので、身近なところから話題を探すこともできる。「授業」「掃除」「給食」「当番活動」「係り活動」のテーマを設定することで、全員が共通理解できる話題で、理由や事例を話し合うことができると考える。

《指導の工夫》

相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと：主張に合った事例を挙げているかを考える視点として、例文を用いて説明する。例文では、主張に合った事例を挙げている文と主張に合わない事例を挙げている文、主張に関係ない事例も挙げている文を取り挙げて、どのような事例を取り上げればよいか共通意識をもたせたい。主張に合った事例を挙げているか考えるときには、まず付箋に意見を書かせ、集まった付箋の意見に対してグループで話し合うことで、筋道が通っているかしっかり考えさせたい。

指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと：発表原稿に書く際に、接続語について振り返り、伝えたいことを効果的に伝えられるように積極的に使うようにさせる。下書きした発表原稿についてアドバイスし合うときには、接続語についても正しくかけているか話し合うように接続語について振り返る。

8 単元の学習と評価の計画（全10時間）

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	観 点		
			国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	「クラスの良いところ発表会」を開くことを知り、学習の見通しをもつ。(行動)	○		
二	2	テーマを決めて、伝えたいことを考える。(発言内容)		○	
	3	主張を伝えるためにどんな情報が必要か考え、集める。(ワークシート・発言内容)		○	
	4	主張と事例が合っているか考える。(ワークシート・発言内容) (本時)		○	
	5 6	主張と事例の整理をし、発表原稿の下書きをする。(ワークシート・発言内容)		○	○
	7	下書きしたものを発表し、アドバイスをし合う。(ワークシート・発言内容)		○	○
	8	発表原稿の清書をし、ポスターをつくる。(ワークシート・発言内容)		○	○
	9	グループごとに発表の組み立てを考えて、発表練習をする。		○	
三	10	「クラスの良いところ発表会」を開き、発表する。(記述内容)		○	

9 本時の目標（話す聞く能力 第二次 4時）

- 伝えたいこととそれを伝えるための事例の筋道が通った構成メモを作る。

10 学習展開（話す聞く能力 第二次 4時）

学 習 活 動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
1 前時の振り返りをし、めあてを確認する。	○ 前時のワークシートを確認することで、想起できやすくする。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 伝えたいことと伝えるための事例が合っている構成メモを作ろう </div>		
2 例文をもとに、伝えたいことと伝えるための事例について考える。	○ 「伝えたいことと伝えるための事例が合っている例文」、「伝えたいことと伝えるための事例がずれている例文」、「伝えたいことに対して伝えるための事例が余分にある例文」「同じ内容の事例を繰り返している例文」を示して比較させ、筋道が通っている文の伝わりやすさが実感できるようにする。	
3 グループで伝えたいことと伝えるための事例が合っているか話し合う。	○ 伝えたいことに対して、事例が合っているか、伝えたいことに関係ない事例が混ざっていないか、同じ事例を繰り返して述べていないかを考えながら話し合うことを確認する。 ○ 事例を書いた付箋を操作しながら考えさせることで、筋道が通っているか考えやすくする。 C： 例文プリントを渡して、比較して考えるよう促す。	
4 自分の考えをまとめる。	○ 発表する目的や相手をもう一度確認することで、自分の伝えたいことが伝わりやすい構成にできているか考えられるようにする。	A： 伝えたいことと伝えるための事例の筋道が通った構成メモを作ることができ、その理由も説明できる。 B： 伝えたいことと伝えるための事例の筋道が通った構成メモを作ることができる。（ワークシート）
5 振り返りをする。	○ めあてを振り返り、振り返りをワークシートに書かせる。	